

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	3426
		決裁期日	令和6年2月6日
名 称	令和5年度 第4回安平町未来創生委員会		
日 時	令和6年2月6日 午前・ 午後 3時00分～5時00分		
場 所	総合庁舎 議員控室		
出席者	未来創生委員・外部有識者 16名 安 平 町（政策推進課） 渡邊課長、山口参事、木村課長補佐、高橋主幹、笹山主査 吉田主事		
会議概要	<p>1 開会（進行：渡邊政策推進課長） ◇過半数以上の参加により委員会が成立していることを宣言</p> <p>2 委員長あいさつ ◇現在の総合戦略の改訂版となるデジタル田園都市国家構想総合戦略の案についての議事が予定されているので、様々な視点から意見を頂きたい。</p> <p>3 報告 （1）社人研人口推計について【資料1】 ◇令和2年国勢調査を反映した最新の人口推計数値について説明。 ⇒質疑応答なし</p> <p>4 議事 （1）安平町デジタル田園都市国家構想総合戦略（案）について【資料2】 ◇総合戦略案に対する町民意見反映状況について説明。 ◇質疑応答要旨</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <委員> 総合戦略案の28ページに、「女性デジタル人材の育成・確保」といった文言があるが、これはどのようなイメージをしているものか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <政策推進課> 前提としてこのページに記載してあるのは、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略の内容を掲載しており、国の方向性を示したもの。国としてはデジタル人材の育成が必要という中で、女性デジタル人材の育成・確保を進めていく考えにあり、このページ以降に安平町の取組みを整理させていただいている。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <政策推進課> 女性の仕事復帰は全国的に見ると難しい状況であり、そういった観点から、デジタルを用いた働く場所を選ばない仕事のスキルをつけることによって、復職しやすくなる仕組み・方向性を国は持っており、具体的な方向性として出てきているものと思う。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <政策推進課> デジタル技術・パソコンを使って仕事をしたい方向けのセミナーを12月に実施したが、実際にご参加された方は20名中19名が女性であり、年齢層も20歳代から40歳代と子育て中、もしくは復職を希望する方が中心であった。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <委員> 総合戦略案の53ページ「地域公共交通」に関して、国が進めようとしているライドシェアのことを記載していると思うが、抽象的な言葉ではなく「ライドシェア」という言葉を掲載し取組んでいった方が、よりわかりやすくなるのではないか。 </div>		

<p><政策推進課> ライドシェアを追加するのは問題ないと認識しているが、掲載している「相乗りタクシー」とは別の制度なので、両方掲載できるよう調整する。 ※修正内容については事務局一任として対応することで確認済み</p>
<p><委員> 公共交通に関連した地域おこし協力隊の募集を行っていたかと思うがエントリー状況などはいかがか。 また、MaaSの取組みなども協力隊に担ってもらうイメージか。</p>
<p><政策推進課> 協力隊募集の状況は、問合せは3～4件程度いただいているが募集はない状況。 地域おこし協力隊の業務としては、幅広に考えていて、主はハイヤー会社の従業員として働く方法というのが一つ。それだけではなくライドシェアやデマンドバスなども受けられるような制度設計にしている。応募者がやりたいこととマッチしたところを伸ばしていくイメージである。</p>
<p><委員> 前回委員会で、通信制大学に関する意見をしたが、通信制大学は授業料が安く、大きなメリットがあると思う。そういう通信制大学の受け皿となるような施設を整備したらよいのではないか。</p>
<p><政策推進課> サテライトオフィスのようなイメージで、安平町に通信制大学という学びの場をつくるという発想であると思われる。</p>
<p><外部有識者> リモートオフィスやサテライトオフィスなど、最近では自治体がそうした箱をつくるという話はよく聞いていて、企業のワーケーションという形での誘致があるかと思うが、違った視点での取組みとして非常に面白い考えだと思う。</p>
<p><政策推進課> 似たような取組みとして、地域おこし協力隊インターンを行っており、2～3週間程度安平町をフィールドに学んでいるという状況。下地は似ているようなので、参考にさせていただきたい。</p>
<p><委員> 高齢者の転出を抑制するということを考えた時に、安心して住み続けられるかが重要である。サービス付き高齢者住宅を誘致することも一つ考えられると思う。</p>
<p><政策推進課> 総合戦略21ページに「高齢者の転出抑制は可能か」が記載されており、「ひとり暮らしとなった父・母の生活が心配」という不安を取り除く政策展開を行うことで転出抑制は可能であると分析をしている。総合計画や総合戦略において、住み続けられるまちづくりを進め、必要な取組みを行っていかねばならないと認識している。</p>
<p><委員> 身近なところで、支援を受けられる方が地域にいるということを知ってもらうことが安心に繋がる。社会福祉協議会においては支援が必要な方は訪問介護などの様々なサービスの提供を通じて、地域の安心につなげていく考え。</p>
<p><委員> 高齢者が不安を抱えるという時に、近くに医療施設があるかないかは重要なこと。追分・早来地区に各1医療施設があるということは今後も継続させていかなければならない。また、高齢者の移動手段を確保していくことも重要。 さらに高齢者の健康管理も地域に住むための安心に繋がるのではないかとも思う。</p>
<p><政策推進課> 安心して住み続けられるまちづくりが重要と認識している。令和4年は15人程度の人口の社会増だったものが、令和5年は90人程度の増となっている。単純に転入者が増えたのではなく、転出の数が下げ止まりとなってきたところであり、住んでいる方々が住み続けられるような施策展開も必要と考えている。</p>

<政策推進課>

総合戦略の8、9ページに掲載しているグラフ「人口増減数の推移」を見てわかるとおり、近年では社会増となることが無かったが、先ほど申し上げが社会増となってきている。半導体工場や早来学園の関係などもあり、人口増の要因がプラスに向いている。

<委員>

再生可能エネルギーに関連して、美唄市が雪を利用して雪室の倉庫を作り、農産物の加工を行ったり、雪の冷気でサーバーを冷やし、出てきた温水でうなぎの養殖を行うというような実験を行っているというニュースを見た。再生可能エネルギーの利活用に向けた研究にとどまるのではなく、具体的などころまで踏み込んでほしい。

また、地域電力会社をつくるということもよく聞くが、そういうことが出来ればより一層まちの魅力が高まるのではないか。

地域コミュニティの活性化については、一般町民における町内会の必要性や認識が低いような気がする。町内会の取組みを町民周知していくことも必要と思う。

<政策推進課>

安平町も1月23日にゼロカーボンシティ宣言を掲げ、これから具体的な取組みを行っていく。その中で地域の中で電力網を作っていくというような地域マイクログリッドの取組みを進めていこうとしている。そのために国や道の調査事業等の採択を受けて進めてきたところ。

美唄市の例にあった雪を活用した再生可能エネルギーの取組みなども過去に取組んできた経過などもあるが、可能性はこのあと検討していかなければならないのかと思う。

地域でのゼロカーボンの動きの中で、地域電力会社の設立も形式含めて検討を進めていく。

<政策推進課>

補足と情報提供であるが、総合戦略55ページにも「自治会・町内会等の活動を見える化し発信しながら加入や理解促進に向けた取組みを進める～」と記載している。見える化については検討中ではあるが、広報紙やあびらチャンネルで発信をしていくことを検討していきたいと考えている。

総合戦略5ページには、各地区の高齢化率について整理しているが、地区によって高齢化率のばらつきもあり、様々な課題を抱えている。

そうした中、追分本町2丁目、3丁目については、追分第2自治会、第3自治会という分けになっているが、合併に向けた協議を進めているところ。市街地の中でも高齢化が進んでおり、限られた人数で維持していくのは困難ということもあり、令和6年4月1日より新自治会の設立に向けて動いている。

<委員>

総合戦略10ページに掲載されているとおり、追分地区においては近年出生者数の減少が顕著であることがわかるが、こちらについてはどのような理由があるか。

<政策推進課>

町内の大きな観点から言うと、安平町内の出生者数が2019年で51人、本表には掲載していないが2020年と2021年においてもかなり減少している。この部分がコロナの影響なのかといったことについては検証が必要と思う。早来地区・追分地区の出生者数の差についての要因分析はできていない。追分地区においても住まいの選択肢もあり、若い方も転入している状況にあるため、出生に繋がってほしいと思う。

<委員>

仮に今後、公営住宅等を建設していくのであれば、集合住宅よりは個別型の住宅が子育て世代にとっては求められるので、検討されたい。

また、人口減少が進んでいくという人口推計がなされる中で、魅力ある地域を作っていかなければならないが、そのためには人材が必要と考える。人材育成には学校の存在が重要と思う。追分地区における義務教育学校の議論等進捗についてはどのような状況か。

<政策推進課>

追分地区については、義務教育学校に向けて施設の在り方含めて協議を進めていく

という方向性である。令和6年度以降に地域を交えて議論を進めていく予定。

<委員>

安平町の基幹産業である農業について、家族農業というのをもう少し力を入れていてもよいのではないか。有機農業関連の方で受入れたいが、農地は保証がないと研修生を受入れることが出来ないという状況もある。その辺りのハードルを下げるなどして推進していくところは出来ないか。

<政策推進課>

ハードルを下げるということが、実は就農の可能性を下げるという認識もある。資金力がないと難しい面などもあり、ハードルを下げたから就農の可能性が広がるかというところではないが、受入れる体制は広げていきたいと思う。

<委員>

道の駅は年間60万人ほど来場者があり、魅力ある観光コンテンツとして鉄道がある。ハイシーズンについては、ミニSLの定期運行を行っているが、運行を行うSL保存協力会も高齢化が顕著であり、継承ということも必要との認識でどのような考えにあるか。

また、農家の協力を得ながら、収穫体験等のコンテンツを用意しているが、総合計画では「グリーンツーリズム推進計画の策定」との表記となっており、どのような方向性にあるのか状況を教えていただきたい。

<政策推進課>

SL保存協力会に関しては数年前から大きく変わっている状況にはないが、後継者の育成について各種課題があるようで、教育委員会が主となり検討を進めていくところ。

グリーンツーリズムに関しては、新たなものを生み出すというよりは、近年人気となっているキャンプを取り入れながらグリーンツーリズムを広げていくようなイメージであること。

<政策推進課>

グリーンツーリズムに関連して、ワイン事業を進めている(株)ダイナックスが、追分地区の方で醸造場の建設も進めていく予定であること。チーズが有名な安平町において、ワインツーリズムの可能性も出てくるものと思う。

<委員>

要望となるが、チーズづくり体験ができるような施設を町の方で整備するというようなことも検討いただければと思う。

(2) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金及び重点支援地方交付金について【資料3】

◇資料に基づき、評価・検証について説明

◇質疑応答要旨

<委員>

産業別に例えば農業への支援というのは何か別に予定されているのか。

<政策推進課>

安平町への交付金配分額の上限額も限られていることから、今回はプレミアム商品券事業を通じて町全体の生活者や商工事業者と幅広い支援が可能となることで、決定しているもの。

<政策推進課>

農業系では国直轄の農水省予算の中で、肥料対策や燃料対策が措置されている。

5 その他

<委員>

議案表紙に掲載されている「街の幸福度 自治体ランキング3位」とはどのような内容か。

<政策推進課>

大東建託㈱が行う全国的な調査があり、その自治体に住んでいる方を対象にアンケートを実施し、その回答数が一定数を超えるとランキングの対象となり、今回初めてランキング対象となった。安平町に住んでいて幸福と回答された方が多く、北海道内で第3位となった。

- ・今年度の会議は終了。次回は令和6年5月～6月頃予定。

6 閉会 (17:00)

以上、終了。